



## 新年あけましておめでとうございます

### 「性の健康」を目指して、前を向こう

昨年 11 月 2 日、男女格差（ジェンダーギャップ）の大きさを国別に順位付けした「世界経済フォーラム」の報告書が公表された。日本は下がり続けて 114 位（前年 103 位）と報じられた。主要 7 か国（G7）では最下位だった。

健康の平等度は世界一、女性の高学歴化で教育格差も改善、しかし政治分野は後退、経済は賃金格差が縮小し少し順位を上げた。健康と教育の分野は男女平等度トップのアイスランドと変わらないのに、政治と経済の分野の格差が大きかった。政治・経済は社会の根幹・基本構造であり、決して自動的に達成できるものではない。ガラスの天井ならぬ「鉄の天井」

とこぼした小池百合子都知事旋風もあつという間に減速した。身近なところで、男女の共同参画は進んできたと感じられる昨今ではあるが、男女が共に安心して生きていくには、まだまだたくさんの障壁が立ちはだかっている。

健康の平等度は世界に誇れるとは言っても、それは健康寿命に関することである。さて、「性の健康」はどうか。昨年、わたしが代表を務めるリプロネットみやぎ（正式名称：リプロダクティブ・ヘルス / ライフ・ネットワークみやぎ）で「からだ性と性のホンネ！」～男女それぞれ 100 名に聞きました～のアンケート調査を実施した。前回（2008 ～ 2010 実施）と比較し、性交渉の消極化が進んだ。セックスレスが既婚者の約半数を占め、未婚者ではとくに男性の消極化が顕著だった。「第 8 回男女の生活と意識に関する調査：2016」（主任研究者：北村邦夫）では、18 ～ 34 歳の未婚男女のうち、性交経験のない割合は 40 数％に達しており、セックスにあまり関心がない若者が増えており、一方 49 歳までの婚姻関係にあるセックスレスカップルは 5 割弱に達したと報告した。性交渉の消極化は、日本社会全体で起こっていることだ。

しかし今回の調査で注目したことだが、男女の関係性は決して後退したわけではなかった。未婚者では「性交渉の意味」が「愛情表現」「ふれあい（コミュニケーション）」と答えた男性が増え、男女差が無くなった。既婚者では、男女とも「性交渉がなくても関係はうまくいっている」と答えた方が多く、婚外の性関係も少なかった。性交渉の無い理由では、男女ともに「疲れている」「忙しい」「相手が求めてこない」が多かった。子どものいる夫婦は性交渉をしない割合が高かった。育児、子育て等の家庭生活に関わる仕事であれ、ストレスの多い職場の仕事であれ、男女ともに余裕ない日々の在り方がセックスレスの背景に大きく立ちはだかっているだろう。性交渉は消極化したとはいえ、お互いの精神的距離間はむしろ近づいてきたと感じられ、なぜかホッとする気持ちにもなった。

「性の健康」の目指すところは、「性の権利」「男女平等」、そして「性の喜び」である。男女が共に向き合える準備段階にあるか、その兆しは見えてきた。人間社会は必ずや前に進んでいくだろう。まだまだ道半ばではあるが、一步一步、歩を進めていければと願ってやまない。

今年も皆さまのご支援・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## あの絵がかえってきた

院長 村口喜代



1987年1月 鳴子の冬景色

私は以前に絵を描いていた。仙台市立病院での勤務生活の時だった。私の一番上の姉は絵の道に進んだ。高校生のころは、絵のモデルにさせられたこともあった。夢中に絵を描く姉の姿は当時の私にはとてもまぶしかった。長い時が流れた。ある時から、独身だった姉を東京から呼び出し、絵の手ほどきを受けることになった。私と、絵を描くのが好きだった夫と子供たちと近所の娘さん、友人たちを誘い、月1回のお絵描き教室が始まった。多忙な勤務医生活だったが、夢中になって絵を描いていた。東京で姉のお弟子さんたちのグループ展に何度か出展した。仙台医師会主催の医科芸術祭に出展したこともあった。クリニックを開院してからはなぜか、絵はほとんど描けなくなった。

市立病院に勤務していたころ、仕事でお付き合いがあったMRさんから、転勤に際して「東北の思い出としてあの鳴子の冬景色の絵が欲しい」と言われた。雪のちらつく中で、鳴子の山のビラージュマンション（現：鳴子サンハイツ）のベランダから見下ろした鳴子の冬景色だった。どうせなら夏の風景も一緒にと、いとも簡単に差し上げた。一つだけ条件として、毎年賀状をくださいとお願いした。その後長い時間が過ぎ、昨年正月明けに遺族からのハガキが届き、彼の不幸を知った。

奥さんにお話し、絵の里帰りをお願いした。そしてあの絵は戻ってきた。毎日絵を眺めながら、再び絵を描こうとの意欲が戻ってくることを願っているこの頃である。

## 私のオフタイム ～時を経て再ブーム～

看護師 菊地香織

子どもの頃、女の子だったらリカちゃんで遊んだことのある人、持っていた人が多くいると思います。

リカちゃん人生生誕 50 周年の今年、私の中でリカちゃんの再ブームが来ました。きっかけは娘のクリスマスプレゼントにリカちゃんを選んだことです。子どもの頃は、服も少なく、特別な日しか洋服を買ってもらえませんでした。今は自分で買うことができたり、作ったり、リアルな服を着せたりと、子どもに戻ったように楽しんでいます。娘と一緒に着せかえや小物作りなど同じ時間を共有できることも楽しみにしています。今では、娘よりリカちゃんにハマっている自分がいます。ドール好きの方がいたら、声をかけて頂けたら嬉しいです。



オーダーメイドのリメイク着物

## 【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。



## 【編集後記】

みなさま、新年あけましておめでとうございます。今年はどうな一年になるでしょうか。戦争のない、平和な世の中であることを心から願っています ☺  
今年もきよくりNEWSをよろしくお願い致します。

発行元：村口きよ女性クリニック  
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>  
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

